

白川総裁記者会見要旨 (4月23日)

G20 終了後の菅大臣・白川総裁 共同記者会見における総裁発言要旨

2010年4月24日

日本銀行

於・ワシントン

2010年4月23日(金)

午後6時00分から約25分間(現地時間)

【冒頭発言】

今回のG20では、世界経済が回復を続け、強固で持続可能かつ均衡ある成長への移行が順調に進んでいることを確認しました。「強固で持続可能かつ均衡ある成長の枠組み」に関する議論が行われたほか、金融規制改革について、これをしっかりと実施していくことを確認しました。金融機関の負担のあり方についても、IMFから中間報告を受けました。

私からは、わが国の経済情勢や金融政策運営について説明しました。景気の現状について、持ち直しの持続傾向がより明らかになってきており、国内民間需要の自律的回復に向けた幾つかの萌芽もみられるようになってきていることを説明しました。金融規制改革に関しては、第1に、規制の効果・強さを全体として評価する必要があること、第2に、様々な規制がマクロ経済活動の回復を阻害しないようにすること、第3に、具体的な制度設計に当たっては、各国の実情等を踏まえて、国毎に望ましい対応が異なり得ることなどを指摘しました。

【問】

金融規制改革について、具体的にどのような議論があったのでしょうか。

【答】

金融規制改革については、昨年12月にバーゼル銀行監督委員会が資本規制・流動性規制をはじめとして、規制の包括的な提案をしています。現在は、この提案を受けて、それがどのような影響をもたらすのかといった調査をはじめ、民間金融機関と市中協議を行っている段階です。従って、今回は何か個別の問題について具体的に議論していくというよりは、これから議論をしていく上で、どういう点に注意して

いった方が良いのかということを中心に話し合いました。その意味では、過去何回かのG20とは金融規制改革に関する議論のステージが少し違うように感じました。詳細はこの発表文に示されておりますから、それ以上に付け加えるものはありません。

【問】

対立点などはあったのでしょうか。

【答】

もちろん、金融規制についてはこれまでも様々な意見がありました。しかし今は、最終的な目的である国際的な金融システムの安定に向けて、どのような解決策を見出しうるのか、皆が共同で作業を行っているところです。もちろん、意見の違いはありますが、その擦りあわせをこの後の決められたスケジュールに沿って努力していくことについて、互いに意思を確認した、ということです。

以 上